

KSKS

No. 132

24. 8. 31

ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円
年間 300円

◆法人からの報告 相談できる関係性・協働を大切に 理事 庄野 千恵子 … 1	◆Reports 歩っと地活 … 3 ぽすと／きらく舎 … 4 法人収支計算書 … 5 法人事業活動計算書 … 6 法人貸借対照表 … 7 新入職員紹介 … 8
◆Reports ゆいの会研修 … 2	◆Thanks 後援会費納入者 … 8
◆News ◇ぐっど・たいむが 子どもケアラーサポート事業登録… 3	

「生活支援の視点」 相談できる関係性・協働を大切に

7月からさわぎの事業形態を生活介護から就労継続支援B型に変更しました。報酬改定により生活介護では経営が厳しくなるためです。

最近、他の法人の就労継続支援B型事業所(以下、B型事業所)から営業のFAXや訪問を受けることが多くなりました。高工賃、送迎付き、昼食や飲み物無料のほか清潔感ある施設の写真などがパンフレットに示されています。好条件のアピールが興味関心を引き、行動するきっかけになるかもしれません。

国は、就労継続支援B型事業の役割は、就労のニーズへの対応だけでなく、利用者の主体的な生活と自己実現を目指した支援や心身の健康の維持・増進のための支援、社会参加の機会の保障、権利と意思決定の保障であるとしています。

当会でも通所事業の利用者数が減少してくると、利用していただくために事業所活動のアピールを、という話題が出ます。「ゆいの会に何が求められているのか」等、意見交換をする中で共通の認識は、「生活支援の視点」です。当会においては、法人内どの事業においても共通して大事にしているものです。

当会は、利用者さんの意欲や意識に変化が起き、

「望み」を語る事ができるよう、相談できる「人」や「関係性」を大切にした支援を行なっています。そのため、B型事業所でも定期面談だけでなく訪問、同行など様々な生活支援を実践していますが、作業活動に取り組みつつ個別支援を丁寧に行なうには、人的限界が生じるという課題もあります。

情報交換に終始する形式的な連携ではない協働的な生活支援に、本人を取り巻く支援者とともに取り組んでいきます。(庄野千恵子)



【法人の動き】

理事会を5月22日に、評議員会を6月6日に開催し、以下について承認を得ました。

- ◆2023年度活動、収支報告
- ◆さわぎを生活介護から就労継続支援B型へ事業変更(7/1~)
- ◆生活訓練こもれびの事業休止(8/1~)

Reports

自らの心の健康を大切にするために 法人職員研修 『メンタルヘルス』

寧楽ゆいの会は6月29日(土)、伏見ふれあい会館で今年度1回目の法人職員研修を行ないました。「メンタルヘルス」がテーマで、職員16人が参加しました。

今できることを明確に

令和6年度が始まり、報酬改定や法人の職員体制も変化がありました。午前中は、ゆいの会が形を変えながらも事業を継続していくために、何が必要かを考える機会として、職員全体でディスカッションをしました。

参加者からは、ゆいの会が大切にしている生活支援の実践を周りにどう示していくか、事業所の広報の仕方等を考えていかなければいけないという意見や、利用者本人や目の前の課題だけでなく、その背景や社会全体に目を向けることも必要という声がありました。

所属する事業所の事業種別が違って、当事者に寄り添った生活支援を大切にしていることを再確認できました。

▶グループで考えを共有します



対人援助職とバーンアウト

午後は、「対人援助職のメンタルヘルス～福祉労働・ケア労働の現在と課題～」をテーマに深谷弘和さん(天理大学人文学部社会福祉学科)の話をお聞きしました。

バーンアウトとは、極度の心身疲弊と感情の枯渇状態のことです。バーンアウトの症状として(1)情緒的消耗感:働くことができない、疲れ果てた状態(2)個人的達成感の低下:充実感が得られず、自分自身への不信、疑念が高まる(3)脱人格化:利用者に対する無情な、あるいは人間性を欠く感情や行動があります。対人援助職は利用者に対して温かく人間的に、時には献身的に接しなければならない一方で、仕事や業務を無事に遂行して



◀深谷さんからはケア労働の課題やこれからについての話もありました

いくために、冷静で客観的な態度を堅持しなければなりません。

バーンアウトは「抱えこみ」から始まっていきます。働いている中で、「やらないといけないことを後回しにしてしまう」「自分の仕事のマネジメントができず自分を責めてしまう」などは危険です。疲れが溜まってきていることや自分のストレスへの対処方法を把握し、自分の考え方の癖に気付くことが大切です。ストレスが溜まったときの特徴を身近な人と共有しておく、自分で気付かなくても「いつもと様子が違うね」と指摘を受けて早めに休むことができ、バーンアウトの可能性が低くなります。

ストレスへ対処するために行なうセルフケアの行動のことをコーピングと言います。ストレスコーピングには①跳ね返す(欲求不満耐性)…我慢してストレスの原因を押し返そうとする対処(例:残業して仕事を片付けてしまう)②逃がす(自己防衛機制)…物の見方や認知を変えることで対処(例:本当に今すぐにしないとイケないか?)③抜く(カタルシス)…ストレス発散による対処(例:スポーツ、山登り、映画を見る、お酒を飲む等)があります。

ストレスコーピングを話題にするなどメンタルヘルス不調を個人の問題としない職場の雰囲気作りや、「あなたがいてくれて助かった」と互いを称え合い自己効力感を高められるような職員間の関わりも必要です。

職場での悩みの原因が何かを考える時には視座を高く、広く、視点を柔らかくすると、物事の見方、考え方、捉え方が広がります。目の前のことを端緒にその背景や社会構造を知ることが大切です。

(倉見彩)

Reports

制度の狭間に切り込みたい！

ぐっど・たいむ 子どもケアラーサポート事業受託

ホームヘルプステーションぐっど・たいむは2024年7月に「奈良市子どもケアラーサポート事業」の事業所登録をしました。同事業は奈良市が、家事や家族のお世話などを日常的に行なっている18歳未満の子どもがいる家庭を対象に、サポーターを派遣し、家族を手伝うことを目的に2023年度に始めたものです。

ぐっど・たいむでは、精神障がいのある人の居宅介護事業を23年間行なっており、時代や制度が移り変わる中、一人ひとりの暮らしに合わせた支援を行なってきました。その中には親に障がいがあり、子育てにも関わりが必要な家庭がありました。自分の体調や生活の不安だけでなく、育児や学校のことなど細かいところまでサポートが必要で、一緒に子どもの成長を見守ってきた経過があります。

ぐっど・たいむのヘルパー福田陽子さんは、ぐっど・たいむの本来業務では接点のない家庭でも同様の課題があるのではないかと気になっていたと言います。「支援が必要でも既存の制度の対象にならない人に関われるきっかけになるのでは」と思い、登録の申請をした。ぐっど・たいむは、精神障がいに特化した支援をしてきており、『その人らしさ』を大切に利用者に寄り添える強みがある。子どもが子どもらしく健やかに過ごせるよう、また、そういった家庭が孤立しないように外から人が入ることによって解決の糸口や社会とのつながりになれば」と話します。

(江端いず穂)

※同事業の詳細については奈良市のホームページをご覧ください。問い合わせ先は子育て相談課 (0742-34-4804)

歩っと地活

11年の入院を経て、変化 したこと

歩っとに通所を始めて1年半が経ったTonoさん。この間に生活環境や気持ちの面で様々な『変化』があったようです。

★歩っとを利用する前はどんな生活をしていました？

11年間、精神科病院に入院していました。いつの間にか病院が自分の住処であり世界の全てだと思っていて正直、退院したいという気持ちはありませんでした。入院中、仲が良かった友人が亡くなったことをきっかけに退院を決意しました。退院後はワンルーム型のグループホームで人生初の1人暮らしを始めました。「どこで買い物したらいいのか?」「環境の変化に身体はついていけるだろうか?」など不安はたくさんありましたが、グループホームのスタッフに助けをもらいながら生活を整えていきました。スタッフに教えてもらった歩っとは、家から近く、誰かと話したりいつでも寄れる場所があったら良いと思って行ってみることにしました。

★退院して良かったことは？

『自分だけの部屋を持てたこと』です。入院生活は、病院というケージに入れられた動物のような暮らしでした。今はお風呂もトイレも冷蔵庫も自由に使える、入院中はチャンネル権がなかったテレビも好きなだけ観れて最高です♪

★11年ぶりの地域生活。何か驚いたことはある？

退院したその日、電車の切符を買おうとしたら券売機がタッチパネル式に変わっていたのには驚きました。付き添ってくれていた病院のPSWに教えてもらって事なきを得ました。

★歩っとを利用して良かったことは？

友人ができたことと、自分にとって安らげる『社会的空間』が持てたことです。みんなと顔を合わせて話している時、小さな幸せを感じます。

★歩っとを利用し始めてから何か変化はあった？

仲良くなった歩っとのメンバーがB型事業所を利用して、話を聞くうちに、自分も「働きたい」という気持ちが芽生えました。今では週5日、午前中2時間だけB型事業所で働いて昼食を食べ、午後は歩っとでくつろぐことがルーティンです。

様々な変化を柔軟に受け入れ適応できる力、不安や困りごとに対して上手く周りの助けを得ながら乗り越えていく力は、Tonoさんの強みであると改めて感じました。歩っとではマイペースなムードメーカーで、いつも場を和やかにしてくれています。

(藤田麻衣)